

ウサギの健康診断報告書の読み方



検査の成績(測定値)が参考基準範囲から外れていても、必ずしも病気とは限りません。
臨床症状やその他の検査結果と合わせて、担当の先生の指示に従ってください。

健康な子の多くが含まれる範囲

最大過去4回分までの成績を掲載

項目	今回の成績	単位	参考基準範囲	L	H	再	20XX/YY/ZZ	20XX/YY/ZZ
乳び・溶血	(1+・2+)							
総蛋白	7.1	g/dL	5.9 - 7.8	-	○	-	6.9	
アルブミン	4.5	g/dL	4.6 - 6.3	▼	-	-	4.8	*

再の列に*が付いた場合は再検査済の項目となります。

低値(L)から高値(H)までを5段階で表示 (○:参考基準範囲内 ▼:低値 ▲:高値)

各項目と考えられる代表的な疾患・状態

生化学19項目	項目	基準範囲	単位	高値	低値
	蛋白	総蛋白(TP)	5.9~7.8	g/dL	脱水、炎症(胃腸うっ滞、感染など)
	アルブミン(ALB)	4.6~6.3	g/dL	脱水	栄養失調、肝疾患、糸球体腎症、消化器疾患
	A/G比	2.0~6.5	-	-	-
肝胆道系	総ビリルビン(T-Bil)	0.4以下	mg/dL	胆汁うっ滞	-
	AST(GOT)	36以下	U/L	肝細胞障害、筋障害、溶血	-
	ALT(GPT)	12~72	U/L	肝細胞障害、肝リポドーシス、肝コクシジウム症	-
	ALP	25~81	U/L	胆汁うっ滞、若齢、骨疾患、肝コクシジウム症	-
	γ-GTP(GGT)	18以下	U/L	胆汁うっ滞	-
脾臓	リパーゼ(Lip)	71~296	U/L	食事性、腎血流量低下	-
腎臓	尿素窒素(BUN)	10.9~28.0	mg/dL	脱水、腎疾患	肝不全
	クレアチニン(Cre)	0.60~1.40	mg/dL	脱水、腎疾患	-
エネルギー代謝	総コレステロール(T-Cho)	74以下	mg/dL	食事性(種子類の多給など)、肥満、肝疾患	肝不全、慢性炎症失調、妊娠中
	中性脂肪(TG)	28~222	mg/dL	食事性(種子類の多給など)、肥満、肝疾患	肝不全、慢性炎症失調、妊娠中
	血糖(Glu)	115~214	mg/dL	ストレス、急性腸閉塞、糖尿病(稀)	食欲不振、肝不全
ミネラル	カルシウム(Ca)*1	13.4~16.0	mg/dL	食事中Caの増加、慢性腎臓病、腫瘍性疾患	妊娠中、授乳期、低アルブミン血症、慢性腎臓病
	無機リン(IP)	1.6~4.1	mg/dL	腎疾患、若齢	食事不足、腸吸収障害、代謝障害
電解質	ナトリウム(Na)	140~149	mEq/L	水分不足、水分喪失(消化管や腎からの喪失)	慢性腎臓病
	カリウム(K)	3.7~5.5	mEq/L	慢性腎臓病による排泄障害	胃腸うっ滞、消化管からの喪失、食事中の欠乏
	クロール(Cl)	98~113	mEq/L	通常、Naに付随して変化	通常、Naに付随して変化

オプション項目	SAA			血球計算	白血球数		
	6.3未満	μg/mL	炎症の有無を調べます		2700~8500	/μL	炎症、感染などで変動
T4	0.50~2.40	μg/dL	甲状腺ホルモン濃度を調べます	赤血球数	498~710	×10 ⁴ /μL	貧血、脱水など赤血球の増減による異常の有無を判定
				ヘモグロビン	11.9~15.7	g/dL	
糖化アルブミン(GA)	11.4~18.0	%	過去数週間の血糖の状態を調べます	HCT(ヘマトクリット)	34.3~50.4	%	赤血球のサイズ、色素濃度測定により貧血を分類
				MCV	63.3~74.5	fL	
				MCH	20.7~24.1	pg	
フルクトサミン(FRA)	333~565	μmol/L		MCHC	30.7~34.7	%	止血に関与する血小板の数を測定
				血小板	14.6~61.9	×10 ⁴ /μL	

*1 Caについては現時点では臨床的意義が明確になっておらず、今後検討の余地があります。

定期的な健康診断の受診が大切です

ウサギの寿命は5~9年ともいわれていますが、人と共に暮らすペットのウサギたちは11~12歳、場合によっては14歳近くまで長生きをすることも、今では珍しくありません。若齢期は成長に伴う健康状態、成年期は季節の移り変わりに伴う体調変化、シニア期は長寿に向けた健康管理のため、定期的な診察と健診による血液検査を行い、病気の早期発見と治療に繋がっていきましょう。

ウサギに多い疾患

歯科疾患

消化管うっ滞

肝疾患

膿瘍(膿がたまった状態)

尿路結石

子宮疾患

腎疾患

エンセファリトゾーン症